

# 歩行空間ネットワークデータの活用に向けて

---

平成30年12月

政策統括官付

# 1. 歩行空間ネットワークデータの整備状況

○歩行空間ネットワークデータは、平成22年度から3大都市圏で整備が始まり、平成30年12月現在、**30地域**で約**1,300km**のデータが整備済み。

○歩行者移動支援サービスの全国的な普及に向け、より一層の歩行空間ネットワークデータ等の整備が必要。

## ＜歩行空間ネットワークデータの整備地域＞



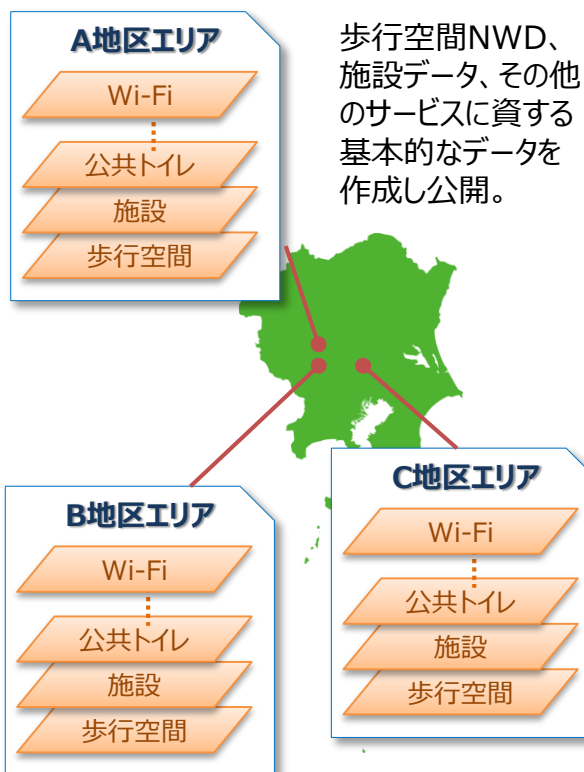
## ＜歩行空間ネットワークデータの整備延長＞

NO	整備地域	延長 (km)
1	東京都 渋谷駅周辺、皇居外苑周辺、東京駅周辺、新宿駅周辺ほか	790.3
2	大阪府 北浜・淀屋橋・難波地区、新大阪駅周辺	123.8
3	愛知県 名古屋駅周辺	118.5
4	神奈川県 新横浜駅周辺、鎌倉駅周辺	72.2
5	福島県 福島地区、いわき地区、会津若松駅周辺	57.9
6	兵庫県 姫路駅周辺、篠山地区、豊岡地区	44.0
7	福岡県 福岡地区、大牟田駅周辺	28.8
8	島根県 松江駅周辺	28.7
9	奈良県 明日香地区	15.0
10	群馬県 渋川地区	9.4
11	その他 三重県伊勢地区、静岡県下田地区、長崎県長崎地区ほか	24.6
合計		1,313.2

○歩行者移動支援サービスは、障害者等の利用者の多い地域や観光地等でニーズが高いが、その他の地域への展開が課題。

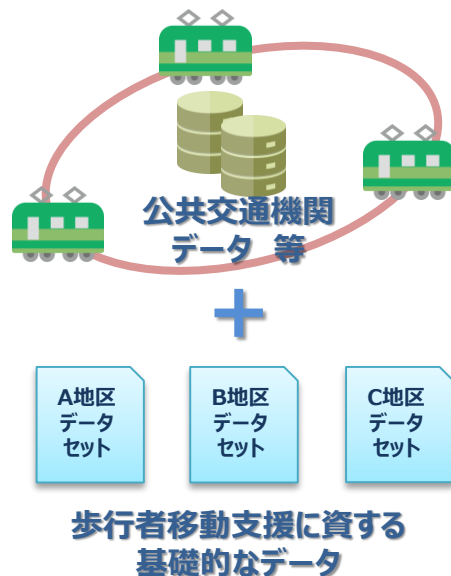
○サービスの創出には、歩行空間ネットワークデータ等の**基礎的なデータと公共交通に関するデータ等**、地域のニーズに応じた**多様なデータ**を利用できる機会を提供することが重要。

## ① 基礎的なデータの整備・公開



## ② 民間企業等が所有する多様なデータを組合せ

歩行空間ネットワークデータ等の基礎的なデータ他、公共交通に関するデータ等、地域のニーズに応じた多様なデータを組合せ。



## ③ 地域のニーズに応じた多様なサービスの創出

基礎的なデータに加え、民間企業等が所有するデータを組合せることで多様なサービスが創出。

- ✓ バリア情報を考慮した電車の乗継案内
- ✓ 鉄道駅から東京オリパラ競技場、観光施設、商業施設等へのバリアフリールート案内等

地域のニーズに応じた屋外、駅構内、施設内をシームレスにつなぐ、歩行者移動支援サービスの実現